

第2回 臨地実習指導研修会報告

「今、改めて臨地実習指導とは（基礎編）」

第2回臨地実習指導研修会（一般社団法人日本看護学教育学会主催）が開催されました。研修会の様子と研修参加者アンケート集計結果を報告します。

研修日時、場所：東邦大学看護学部（東京都大田区大森西4-16-20）

平成29年3月4日（10時～16時）、3月5日（9時～15時）

研修目的：看護学実習（臨地実習）についての基礎知識の修得を通して、実習指導の質向上に向けた自己の課題を明確にする。

研修目標：

- 1) 授業としての看護学実習の特徴を理解する。
- 2) 実習指導における教授活動の特徴と教員の役割を理解する。
- 3) 実習中の教授活動を自己評価する。
- 4) 実習指導の質向上に必要な学習課題を明確にする。
- 5) 学習課題を克服するために必要な手段を述べる。

主催者、ファシリテーター：理事長 佐藤紀子（東京女子医科大学）、総務委員 森田夏実（東京工科大学）
教育活動委員長 前田ひとみ（熊本大学）、教育活動副委員長 縄秀志（高崎健康福祉大学）
教育活動委員 池西静江（Office Kyo-Shien 代表）、大池美也子（九州大学）、定廣和香子（札幌市立大学）
野崎真奈美（東邦大学）、水戸優子（神奈川県立保健福祉大学）、山口直己（豊橋創造大学）

研修1日目スケジュール

グループワーク1

- ・開会の辞、オリエンテーション
- ・自己紹介・役割分担
- ・学習課題の明確化（文献カードに記載した課題の共有、優先順位の検討と焦点化）

中間報告

- ・3つの課題の揭示、課題の報告
- ・課題の明確化に向けた質疑応答

講義1

- ・実習指導の基礎知識講義（看護基礎教育カリキュラムと看護学習、授業としての看護学実習の特徴など）
講師：定廣和香子（札幌市立大学）

グループワーク2

- ・講義を受けて、教授活動を自己評価するとともに自己学習にて解決可能な課題を明確にし、揭示物をはずす

全体討議

- ・残った課題を確認し、意味内容の類似性に基づき分類する
- ・課題の統合結果を共有する
- ・残された課題の整理、まとめ

研修2日目スケジュール

シンポジウム

- ・ファシリテーターによるシンポジウム
- ・課題解決に向けたヒント（学習課題に関連したミニ講義、コメント）

グループワーク3

- ・ヒントを得て、自己学習により解決可能となった課題の揭示をさらにはずす
- ・残された課題について解決方法を検討

成果発表 総評

- ・残された課題と解決方法の発表
- ・解決できた課題の経過報告
- ・佐藤理事長、前田委員長より総評

講演

- ・臨地実習指導に磨きをかけるわざ
講師：大池美也子（九州大学）

修了証授与

- ・修了証の授与
- ・閉会の辞

研修1日目の風景、様子

10:25～
グループ
ワーク 1

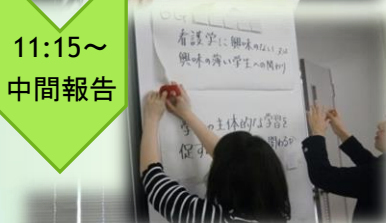


14:20～
グループ
ワーク 2



14グループに分かれ、日頃感じている
臨地実習指導上の課題を話し合い、3つの課題に整理しました。

11:15～
中間報告



司会池西先生

3つの課題を壁に掲示し、各グループ3分程度で報告をしました。

15:30～
全体討議

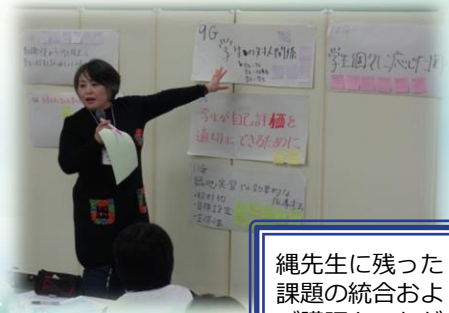


定廣先生の講義をヒントとして、自己で解決可能な課題を見直し、その掲示ははずしました。



<各グループから挙げられた課題の抜粋>
学生が患者のニーズをとらえて看護展開を行うためにどう関わるか
日常生活体験の少ない学生に対して患者を生活者としてとらえる指導法
学生が自己評価を適切にできるためには
学生の個別の差に応じた指導方法
学生の対人関係（学生-患者、学生-指導者、学生-学生）
学生の特徴・特性を理解した指導方法
教員の能力を向上させるための自己・他者評価、評価規準の考え方
記録（看護過程）のあり方
時間配分（学生への平等・公平）、
指導者（教員、指導者）間の連携をどうするか
臨床と学校との連携をどうとるか

15:45～
残された課題の整理



縄先生に残った課題の統合および講評をいただきました。

12:50～
講義 1



定廣講師から「実習指導の基礎知識」の講義をいただきました。



総務委員の森田先生から、講評と明日に向けての熱いエールをいただきました。

明日に続きます。

研修2日目の風景、様子



司会
水戸先生

9:00～
シンポジ
ウム



シンポジスト(ヒント提供者)



池西先生
「発問の仕方を
工夫しましょう」



野崎先生
「成長のプロデュ
サーになりましょう」



山口先生
「評価基準は教員間の
コンセンサスが大切」

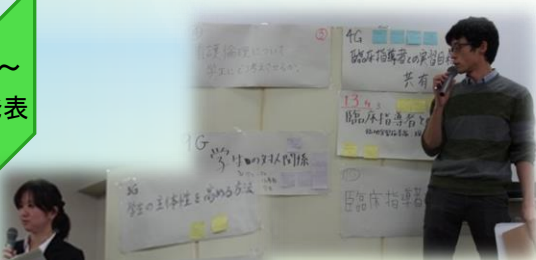
「課題解決に向けたヒント」として、シンポジストの先生方より昨日残った課題（7つ）について、事例や考え方など、ヒントが紹介されました。

10:15～
グループ
ワーク 3



ヒントを得て、残された課題について解決方法を検討しました。

11:05～
成果発表



解決可能となった課題は掲示をはずし、残った課題については、今後の解決方法を考えました。

11:50～
総評



佐藤理事長、前田教育活動委員長より、総評をいただきました。

13:00～
講演



大池美也子先生より「臨地実習指導に磨きをかけるわざ」として、熱くしかもユーモアたっぷりの、すばらしい講演をいただきました。

15:30～
修了証
授与

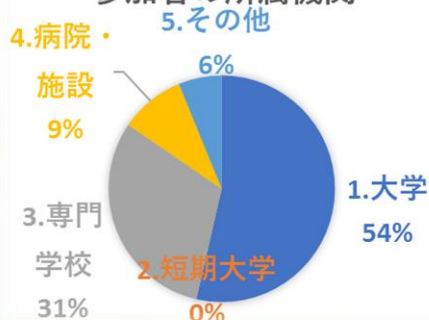


2日間しっかり研修に参加した方には、修了証が授与されました。お疲れ様でした！

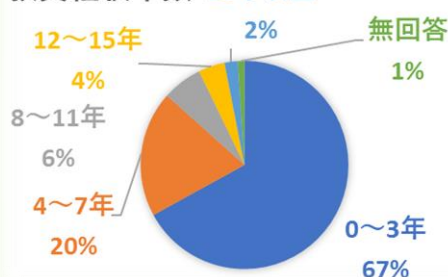


研修参加者アンケート集計結果より（回答数97名）

参加者の所属機関



教員経験年数

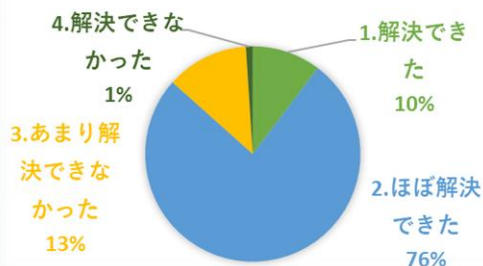


研修参加者の職位

職位名	人	%
1.教授	2	2%
2.准教授	2	2%
3.講師	4	4%
4.助教	31	32%
5.助手	10	10%
6.副校長	0	0%
7.教務主任	3	3%
8.専任教員	22	23%
9.実習指導教員	8	8%
10.師長	2	2%
11.主任	0	0%
12.実習指導者	6	6%
13.実習調整者	0	0%
14.スタッフナース	4	4%
15.大学院生	3	3%
合計	97	100%

今回は、大学、専門学校の若手の教員が多く参加してくださいました。一方、臨床の実習指導者の参加は12%に留まりました。

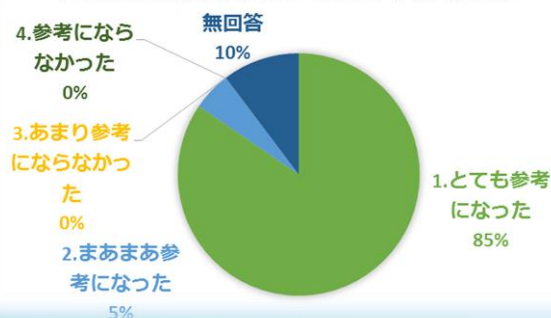
1日目の講義・グループで課題は解決できましたか。



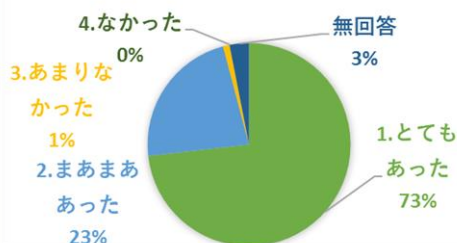
2日目の講義・グループで課題は解決できましたか。



大池氏の講演会は参考になりましたか



2日間の研修を通して臨地実習指導に関する新たな学びはありましたか



各参加者の臨地実習指導上の課題は、2日間の研修で「解決できた」「ほぼ解決できた」と回答した方が多くいました。また、大池先生の講演や一連の研修を通して「学びがとてもあった」方も多くいました。一方で、僅かではありますが、「学びはあまりなかった」方や無回答の方もいました。

研修参加者アンケート集計結果より（回答数97名）

2日間の研修会の学び・感想（自由記載）		件数
研修を通しての学びや感想	・評価の考え方やこれからの看護教育に関するヒントを得られた。 ・一人で抱え込まない、学生と一緒に学んでいくことを学んだ。 ・看護教育学で疑問や悩みが解決できる可能性があると思った。	21
計50件（複数回答有）	・課題に対する新たな糸口を見い出せ、自分がしてきたことの意味づけができた。 ・臨地実習指導での自分の悪い癖に気づけた。自分自身の力不足を認識した。	13
	・他の先生方も同様な課題を持っていることが分かり、安心した。気持ちが楽になった。 ・みんな同じ悩みをもっていることがわかり、相談しながら進んでいける場を知れてよかった。	7
	・教員が何を大切にするのか、どんな学生になってほしいのかを常に考えていくことの大事さや、教員の立場、役割がわかった。 ・実習での学生との関わりに迷いがなくなり、教員を続けてみようと思った。 ・教員自身も変わることを考え方を持つことが大切だと思った。	6
	・理論化できていないところを再確認、実践知を理論化することの重要性を改めて考えさせられた。	2
	・紹介された書籍を活用しようと思う	1
講師に関する感想	・大池先生の話が興味深く、楽しく多くの気づきがあった。自分が学生に直接関わらなくても声かけなどを沢山しようと改めて思った。	10
計26件（複数回答有）	・先生方の言葉が自分の迷いを軽減させてくれ、自信が持てた。参考になった。自分なりに実践したい。	9
	・自分自身が抱えている悩みを他の先生方も持っていることが分かり、少し安心した。	2
	・問題解決が内容的に乏しく感じた。分かりにくい部分があった。	2
	・先生の柔らかい雰囲気緊張がほぐれた。	1
	・スタッフに求められていることなどを知りたかったが、教員寄りの研修だった。グループディスカッションがついていけなかった。	1
	・メモしきれないところがあったので、もう少しゆっくり聞けると良かった。	1
GWに関する感想	・他の参加者も自分と同じ悩みを持っていることがわかり、意見を聞くことが出来て有意義だった。グループワークで同じ悩みを共有し解決に向かうことで安心と自信につながった。	9
計23件（複数回答有）	・グループワークにより自分の考えを再認識でき、解決のための新しい視点にも気づけた。	7
	・グループワークの過程に多くの学びがあり、先生方からも様々な視点や考え方を学ぶことができ、今日からできる具体的な解決方法を見いだすことができた。	3
	・グループ間が近く、グループ内の話が聞きにくかった。ファシリテーションの役割について考えて欲しかった。	1
	・グループを所属機関で分けても良かったのでは。	1
	・グループワークが少し学生の気持ちになりよかった。ファシリテーターのアドバイスが的確で新たな学びになった。	1
	・GWでは限られた時間で考えられた。	1
研修に関する意見等	・もっとブラッシュアップしたい。次回につなげられるステップアップⅡをお願いしたい。	2
計3件	・1日目の講義の内容がもう少しあればと思った。	1

2日間の研修を通して、グループで話し合うことで、臨地実習指導上の課題を共有し、解決の糸口を見出していた方が多いことがわかりました。

研修参加者アンケート集計結果より（回答数97名）

今後の研修会希望に関する自由記載

		件数
応用編の希望 計17件	・応用編があれば参加したい。	6
	・今回のように経験豊富な先生方からのレクチャーが受けられる研修会希望。	5
	・残った課題に対する研修や今回得た解決策を実行した結果をもちよる研修。	2
	・カンファレンスの効果的な運営方法を知りたい。	1
	・学校の多重課題の対応の仕方を知りたい。ファシリテーターの話をもっと聞きたい。	1
	・学生のマイナスイメージをプラスに変えられるようなアドバイスが欲しい。	1
	・学習目標と評価について知りたい	1
対象に関する希望 計7件	・臨床指導者目線の研修会があるといいと思う。	3
	・新任教員向けの研修	2
	・今回の参加者の内訳バランスに偏りがあった。施設側参加者と半分ずつくらいがよい。	1
	・もっといろいろな方が参加できる方がよい。病院側、学校側の意見を聞くことで連携がうまくいくと思った。	1
教材、内容に関する希望 計4件	・領域ごとの特徴に合わせた研修希望。	2
	・資料に書き込みスペースがほしい。	1
	・ファシリテーターの先生方から、もう少し参考書や研究論文などを紹介してもらいたい。	1
講師に関する希望 計4件	・大池先生の講演が参考になった。また違う内容も聞きたい、実習への取り組み方を取り入れたい。	4
GWに関する希望 計3件	・臨地実習指導だけでなく、講義・演習の授業案などもディスカッションする機会を持つ。	1
	・実習指導場面などの事例をもとにGWして指導方法について討議したい。	1
	・看護教育は一教員の問題ではないため、今回のようなGW形式での研修をしてほしい。	1
時間・時期に関する希望 計3件	・ゆっくり討議する時間がほしい。	1
	・タイムスケジュールに余裕があるとよい。臨床で働く看護師が参加しやすい研修。教育と連携のために良い機会。	1
	・この時期の研修が参加しやすかった。	1
開催場所に関する希望 計1件	・地方の中核都市でも定期的に行って頂きたい。	1
その他 計5件	・定期的に参加して自分自身の課題に取り組めたら。	1
	・学生と喜びを感じた。	1
	・ファシリテーターの話を聞く機会が貴重だった。	1
	・教員になってよかったと思えた研修。	1
	・基礎編の次は優先して参加できるようにしてほしい。	1

<まとめ>

臨地実習指導の基礎編としての研修会を開催させていただきました。研修参加者の皆さん全員が実習指導、学生のこと、学習目標や評価のこと、教育と臨床の連携のことを熱く話し合っていたのが印象的でした。今回臨床の実習指導者の方の参加が少なかったのは、参加者募集期間が短く、かつ参加人数に制限があったためと考えます。このことを課題として、かつ、アンケート集計結果にありますように基礎編のみならず応用編や具体的な課題のための臨地実習指導研修会を企画してまいりたいと思います。

一般社団法人日本看護学教育学会 教育活動委員長 前田ひとみ
委員一同